



# COP30報告会

ブラジルの状況や先住民族の訴え、ピープルズ・サミット

FoE Japan 佐藤万優子

# ブラジルの状況

COP30  
BRASIL  
AMAZÔNIA  
BELÉM 2025



Curupira

<https://cop30.br/en/news-about-cop30/at-cop30-curupira-reinforces-brasils-identity-and-its-bond-with-nature>

COP30のコンセプトがアマゾン地域

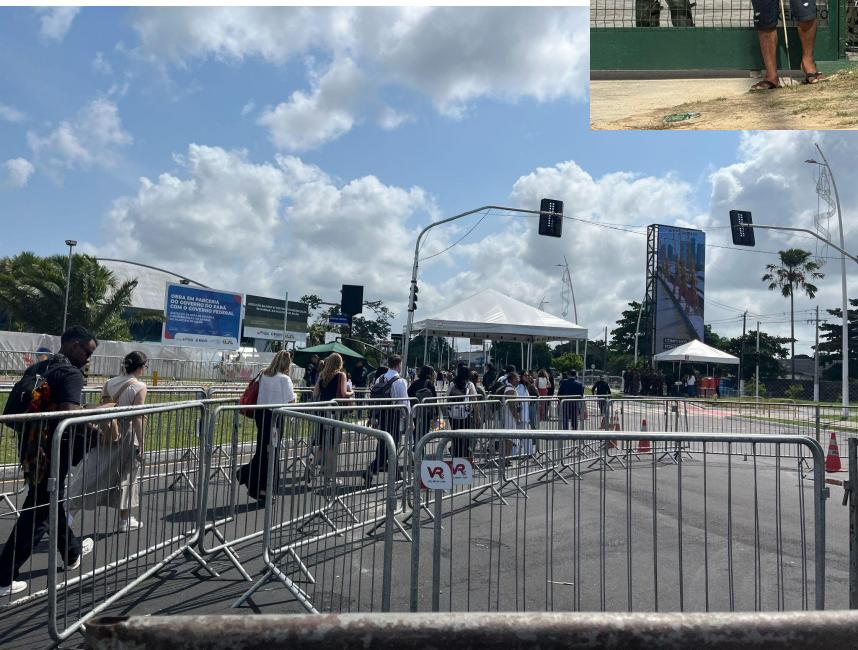


"Where Is the Amazon Rainforest Located?" Rainforest Cruises. N.p., n.d. Web. 29 June 2017.  
<https://amazonaid.org/map-making-activity/>



# 先住民族の訴え

**"our forests are not for sale"**  
「私たちの森は売り物ではない」



©FoE International



# ピープルズ・サミット Cúpula dos Povos

@Universidad Federal do Pará パラ国立大学

先住民族・伝統的な暮らしを営む人びと、農家、キロンボ、漁業従事者、都市労働者、労働組合、住居を持たない人びと、Babassuココナツ従事者、Terreiroの人びと、女性、LGBTQIAPN+、コミュニティ、若者、アフロコミュニティの子孫、年配者、森林や地方の人びとなどの7万人以上の地域、国、国際的なレベルで、運動により構成

⇒これらの多様性のもと公正で民主的な世界を構築

世界中の極右やファシズムの台頭

→気候危機や自然、人びとに対する搾取状況が悪化

責任があるのはグローバルノース、多国籍企業、エリートの支配層

*“There is no life without nature. There is no life without the ethics and the work of care.”*

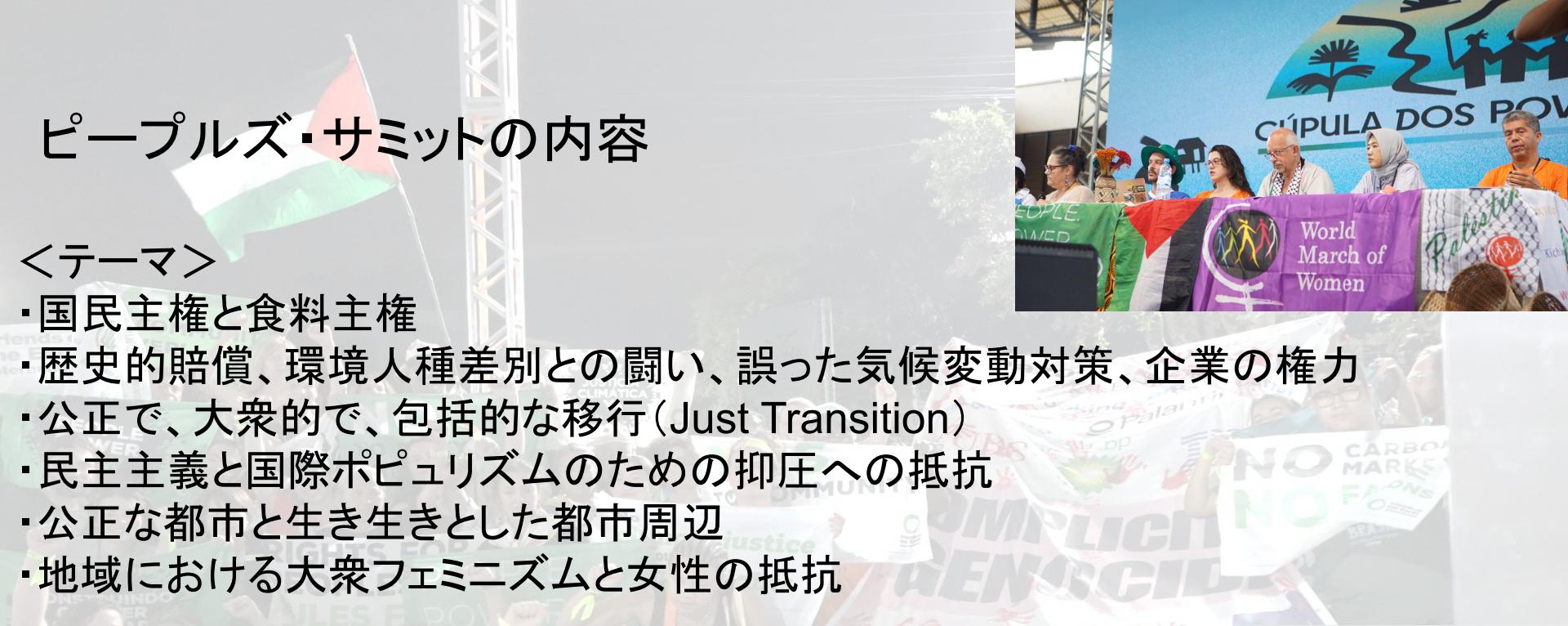
(自然がなければ生命は存在しない。倫理とケアの働きがなければ生命は存在しない。)

真の解決策( True Solutions)は多くの人びとによって培われてきた経験の共有によって導かれる

# ピープルズ・サミットの内容

## ＜テーマ＞

- ・国民主権と食料主権
- ・歴史的賠償、環境人種差別との闘い、誤った気候変動対策、企業の権力
- ・公正で、大衆的で、包括的な移行(Just Transition)
- ・民主主義と国際ポピュリズムのための抑圧への抵抗
- ・公正な都市と生き生きとした都市周辺
- ・地域における大衆フェミニズムと女性の抵抗



# ボートのマーチの様子

体内を巡る血のように  
アマゾン川の水が生命を支えている  
先住民族、伝統的な暮らしをしている人びとの世  
界観一精神的な強さが領土を守り、生命、記憶、  
そして世界の豊かな暮らしを導く



©FoE International



©FoE International



©FoE International

# マーチの様子



# ピープルズ・サミット最終宣言

1. **資本主義的な生産様式** が深刻化する気候危機の主な原因。金融資本と巨大資本主義企業の論理と支配下での商品の生産、流通、廃棄の関係
2. 異常気象や環境人種差別(environmental racism)の影響を最も強く受けているのは**周縁地域** であり、インフラや適応策の不足にも直面。特に女性、若者、貧困層、有色人種に対する正義と補償の欠如
3. **多国籍企業**(鉱業、エネルギー、兵器、アグリビジネス、巨大IT産業)は、グローバルノースの政府と共に謀し、資本主義、人種差別、家父長制のシステムにおける権力の中枢に君臨し、現在直面している危機を最も引き起こし、そこから利益を得ている主体であり責任がある
4. 有害な慣行を永続させ、予測不可能なリスクを生み出すいかかる**誤った気候変動対策 (False Solutions)**に反対する。すべての金融プロジェクトは、透明性、民主的なアクセス、参加、そして影響を受ける人々への真の利益という基準を満たす必要
5. 現在の多国間主義モデルの失敗は明白。死傷者や破壊をもたらす環境犯罪や異常気象はますます頻発し、構造的な原因に対処しなかった無数の国際会議や会合の失敗を物語る
6. エネルギー転換は資本主義の論理に基づいて進められており、再生可能エネルギー源の拡大にもかかわらず、温室効果ガスの排出量は削減されていない。エネルギー生産源の拡大は、新たな資本蓄積の場ともなっている。
7. 公共財および公共サービスの民営化、商品化、金融化は、国民の利益に真っ向から反する。法律、国家機関、そして大多数の政府は、金融資本と多国籍企業による最大利益の追求に形作られ、従属。国家の復興を促進し、民営化に対処するための公共政策が必要

# ピープルズ・サミット最終宣言

様々な課題を踏まえての提案(全15項目のうち最初の5つ):

1. **誤った市場解決策**への対峙。空気、森林、水、土地、鉱物、そしてエネルギー源は、人々の共有財産であるため、私有財産とすることも、占有することもできない
2. 先祖伝来の知恵を認識しつつ、気候変動対策の構築において人々の参加とリーダーシップを求める。国家は、様々な危機への解決策の参考として、これらを認識しなければならない
3. 森林の存続を保証している先住民族や地域住民、コミュニティの土地と領土の境界を定め、保護することを求める。森林破壊ゼロの実現、違法な焼却の停止、そして気候危機により影響を受けた地域の生態系の回復と復興のための国家政策の導入を政府に求める
4. 食料主権を保証し、土地の集中化に対抗するため、人民による農地改革の実施とアグロエコロジーの推進を要求。人々は、協力と、人民の管理下にある技術へのアクセスに基づき、世界の飢餓を撲滅するために、健康的な食料を生産し、人々に食料を供給します。 **土地が人々の手に取り戻されなければ、気候正義は実現しない**
5. 環境政策と解決策の実施を通じて、環境人種差別との闘い、そして公正な都市と生活圏の構築を要求。住宅、衛生、水へのアクセスと利用、固体廃棄物処理、植林、土地へのアクセスと土地規制プログラムは、自然との融合を考慮しなければなりず、質の高い公共交通政策と、運賃無料の公共交通機関への投資を求める